

東日本大震災によるガス事業及び LNG 調達への影響について(4 月 4 日時点)

財団法人日本エネルギー経済研究所

大震災の影響で、4 月 3 日現在、403,711 戸向けの都市ガス供給が停止されている。一方、復旧作業は急ピッチで進められており、これまでに 179,129 戸向けの供給が復旧した。LNG 基地では、仙台市ガス・港工場が稼働停止しており、復旧の目途は立っていない。LNG 追加調達は概ね順調に進んでおり、国際天然ガス市場も落ち着きを取り戻しつつある。

1. 都市ガス供給

日本ガス協会によると、4 月 3 日 20 時 30 分現在での都市ガス供給停止戸数は 403,711 戸である。供給停止戸数内訳では、依然として仙台市ガス局供給区域が 358,781 戸と圧倒的に多い。一方、復旧作業も急ピッチで進められており、青森県、茨城県、埼玉県、千葉県、神奈川県で停止していた都市ガス供給は 3 月 30 日までに全て復旧した。仙台市ガス局供給区域でも、3 月 24 日より一部で都市ガス供給が復旧している。

2. LNG 受入基地

LNG 受入基地では、仙台市ガス局の港基地が稼働を停止しており、依然として復旧の目途は立っていない。その他の受入基地は全て稼働を継続している。仙台市ガスの都市ガス供給復旧は新潟・仙台ラインからの供給で当面行われることになる。

3. LNG 調達

カタール、ロシア、オーストラリア、インドネシアといった国々の政府や LNG 売主が、既に東京電力あるいは日本向け LNG の追加供給の用意がある旨を表明しており、シェルによる追加カーゴの供給など一部では既に実行に移されている。一方、東京ガス、大阪ガス、中部電力、中国電力といった日本の電力・ガス会社や韓国ガス公社が自社向け LNG カーゴを東京電力に融通する動きも本格化している。LNG 供給余力自体には問題はなく、4~5 月については概ね必要量(報道では 10 カーゴ、約 60 万トン以上)を確保した模様であるが、夏期のピーク需要向けについては売主との協議中だと思われる。一方、3 月 17 日時点での報告¹において既述のとおり、標準船²による輸送キャパシティの確保や大型船³による LNG 受入態勢には問題が残る。

4. 国際天然ガス市場

価格面においては、3 月 17 日時点の報告から大きな変化はない。米国 Henry Hub 価格は \$4/MMBtu 強、欧州各国でのハブ価格は \$10/MMBtu 前後でそれぞれ推移し、アジア向けスポット価格は

¹ 東日本大震災によるガス事業及び LNG 調達への影響について(平成 23 年 3 月 17 日)、
<http://eneken.ieej.or.jp/data/3732.pdf>

² 積載量 145,000m³(約 6 万トン)クラス

³ 積載量 210,000~260,000m³(約 10~12 万トン)クラス

IEEJ:2011 年 4 月掲載

\$11/MMBtu 前後の様相である。日本の震災の影響を各国とも依然として注視しているものの、震災発生当初のパニックは収まったと見て良いだろう。

お問合せ: report@tky.ieej.or.jp